

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 11 月 17 日 (2005.11.17)

【公開番号】特開 2002-165766 (P2002-165766A)

【公開日】平成 14 年 6 月 11 日 (2002.6.11)

【出願番号】特願 2000-365597 (P2000-365597)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 B 5/0245

A 6 1 B 8/02

H 0 4 R 17/00

【F I】

A 6 1 B 5/02 3 1 0 K

A 6 1 B 8/02

H 0 4 R 17/00 3 3 0 A

A 6 1 B 5/02 3 1 0 J

A 6 1 B 5/02 3 2 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 9 月 27 日 (2005.9.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】脈検出装置

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

入力された駆動信号に応じて生体内に超音波を送信する送信用の圧電素子と、前記超音波が前記生体の血流によって反射した反射波を受信する受信用の圧電素子と、前記圧電素子のうち少なくとも一方が一つの表面に設けられた基板を備え、前記基板には前記圧電素子を傾斜させて設置するための傾斜層を備え、前記基板を支持するために、前記基板が生体に接する面の裏面側に設けられた支持部を備えたことを特徴とする脈検出装置。

【請求項 2】

前記基板表面の一部と前記基板表面に備えた前記傾斜層の一部との間に前記圧電素子が架橋して設置されていることを特徴とする請求項 1 に記載の脈検出装置。

【請求項 3】

前記基板表面の一部と前記基板表面に備えた前記傾斜層の一辺との間に前記圧電素子が架橋して設置されていることにより存在する前記圧電素子と前記基板との間が空隙を形成することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の脈検出装置。